

みぎまただに じょうりゆうさぼうえんてい こうじ  
**⑫令和3年度 右俣谷第4号上流砂防堰堤工事における安全対策」について**

美笠建設株式会社

令和3年度 右俣谷第4号上流砂防堰堤工事  
 (工期: 令和3年6月22日～令和3年12月28)

現場代理人 ○林 孝二  
 監理技術者 林 孝二  
 キーワード : 安全管理全般

はやしこうじ



**1. はじめに**

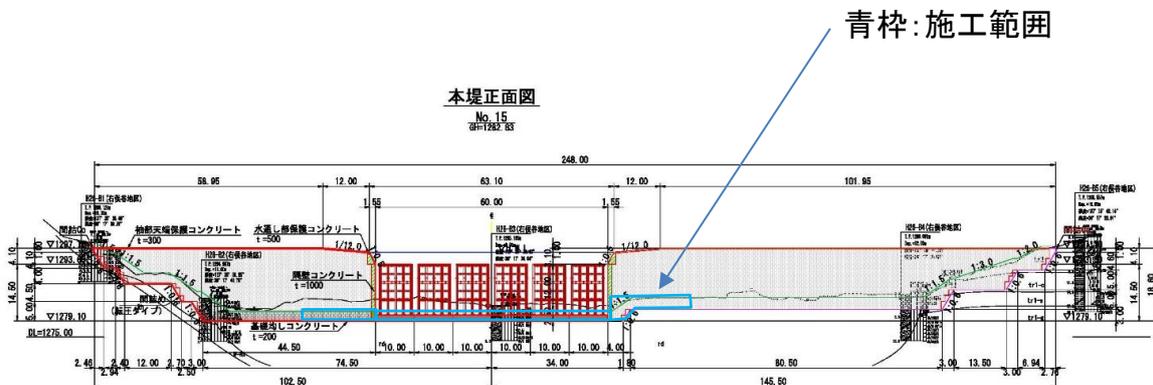
本工事は、蒲田川支流右俣谷において近年頻発する豪雨によって発生する土石流や流木から下流域の住民を守るため、右俣谷第4号砂防堰堤の上流に鋼製スリットダムを新設するものであります。

この堰堤は当初、現場で発生する掘削土砂を流用した砂防ソイルセメントにて施工する計画でしたが、現地調査の結果、岩塊・玉石の割合が多く適合しないことから、従来どおりのコンクリート堰堤として施工することとなりました。

また施工範囲においても、11月以降は降雪により現場での作業が困難になることが懸念されるため範囲を縮小し、高所作業や仮橋等クレーンでの吊作業が無くなったことで安全面においては危険度が低くなりましたが、当現場にて実施した安全に関する対策を報告します。

**2. 工事概要**

砂防土工	掘削工	7,100 m3
	埋戻し工	870 m3
	法面整形工	50 m2
コンクリート堰堤工	コンクリート	2,062 m3
	残存型枠(有孔タイプ)	610 m2
	残存型枠(無孔タイプ)	36 m2
仮設工	砂防仮締切工	1 式



### 3. 安全対策について

#### ① 掘削にて発生する巨石を流用した路肩の明示

当現場にて発生する掘削土砂は岩塊・玉石の比率が高く、特に50～100cm程度の巨石が多く発生します。そんな巨石を利用して路肩の明示および法面の保護に使用しました。

設置に関しては、土砂が砂質土で締め固まりにくいため路肩より1m程度余裕をもって並べました。結果、転落等の事故もなく工事を終えることが出来ました。



重機等通行路



クレーンヤードに関しては、人力にて移設が可能なカラーコーンにて明示しました。



#### ② 避難通路

現場事務所は林道から小川を挟んで離れた箇所に設置したため、緊急時の避難通路として足場板にて栈橋を設置し、ステップ階段にて林道へ繋がる避難通路としました。

今回の工事では、避難しなければならないような状況もなく工事を終えましたが、万が一に備えて今後もこういった対策を怠らないようにしなければなりません。



### ③ 林道ハザードマップ

当現場の運行通路は新穂高登山センターから左俣林道、工事用道路を通過して右俣林道へ入ります。道中は道幅が狭く急斜面であるため、強風や雨により倒木や落石・土砂の流出が頻繁に発生します。そこで、ハザードマップにて危険箇所を明示し新規入場者教育で周知させることで事前に危険を回避することが出来ました。

写真は令和3年9月19日(日曜日)午後17時18分頃に発生した震度4(M5.0)の地震の時のものです。



右俣林道ゲートより300m上流



直径は1.0m程度



右俣谷第4号砂防堰堤付近



直径60cm程度



撤去状況

#### ④ トータルステーションによる気象観測

近年の豪雨はピンポイントで発生することが多いためインターネットでの気象情報に加え、トータルステーション(気象観測装置)にて現場周辺の気象状況を把握しました。今回の工事中、豪雨はほとんど発生しませんでしたでしたが今後も活用していきたいです。



#### ⑤ 熱中症対策

熱中症対策として応急キットの常備、水分・塩分補給のためドリンクや塩飴を作業員に提供しました。結果、安全に作業することが出来ました。



熱中症対策応急キット



ドリンクは川の水で冷やしておきます

#### ⑥ コロナウィルス感染拡大防止対策

コロナウィルス感染拡大防止対策としては、出勤時の体温測定、休憩所内マスク着用の徹底、手洗いおよび殺菌・消毒の徹底を実施しました。

結果、感染者が出ることもなく工事を行うことが出来ました。



#### 4. おわりに

今回は、特に新しい技術等による安全対策を行ったわけでもなく、普段通りの対策を行ったのですが、無事故・無災害で工事を終える事が出来ました。今後の工事においても安全対策を怠ることなく、さらなる対策を考案し、この現場だけでなく各社とも共有しあって現場を進めていきたいです。

最後になりますが、監督職員の皆様と工事関係者の皆様には数多くのご意見・ご指導を頂き厚く感謝を申し上げます。